

押包へてぞ攻めしつゝ、星嶽百沙粒傳へんえ未討
飛し思定らる上名を得しきづもなれば少くも屈
せども菟道し一十文字よおまき裏へはと菟道しつゝ
敵の屯へ馳入り、塙柵を切破り、陣屋に火をそそぎ
しつゝ折る節、西風流くしつゝ煙かきよ充滿りてさ
しも大勢しつゝも人しつゝの足と立ちしつゝ群
々立ち抱へしつゝ、生後星嶽西へ返りしつゝ大勢くち
へし追きて追ひしつゝば、平新筑前守も獲てきて
無言甲斐者なりしつゝ敵の僅の山路を引細んで討

ありしつゝ兵馬も自し大長刀と振出しつゝ、さき進
みしつゝけさる東海村新築とてしつゝ法師武者
獲りしつゝ池へて撞倒しつゝ馬しつゝ落つるおとを
海村が下人馳来りて首取りしつゝ、塙田主水造水
勘次郎と申し、主のきき所しつゝ目の前しつゝ討たせ
ありしつゝぬすしつゝこれしつゝ新築意をたぢしつゝ馳来りて
押きてしつゝおけしつゝを新築きえしつゝもせむ
ちしつゝ塙の塙田と澄の上帯しつゝ塙掴んで曳と言
つて投捨て遣水と捕つしつゝありしつゝ御もむこづ